

病院機能の変更に係る整備計画報告書

- 1 病院名：旭ヶ丘病院
- 2 所在地：埼玉県日高市大字森戸新田 99-1
- 3 開設者：医療法人積仁会 理事長 古城 資久
- 4 病床数
 変更前：142 床（一般病床 82 床、療養病床 60 床）
 （医療機能別内訳：急性期 19 床、回復期 63 床（地域包括ケア病棟）、慢性期 60 床）
 変更後：142 床（一般病床 82 床、療養病床 60 床）
 （医療機能別内訳：急性期 19 床、回復期 63 床（地域包括ケア病床 26 床、回復期リハビリテーション病棟 37 床）、慢性期 60 床）

5 スケジュール

	項 目	完了（予定）年月
1	開設（変更）許可（医療法）	変更なし
2	建築（着工）	平成 年 月
3	建築（竣工）	平成 年 月
4	医療従事者の確保	令和 2 年 4 月
5	使用許可（医療法）	変更なし
6	病床機能変更	令和 2 年 6 月

6 整備方針、目標

(1) 当院の現況について

現在、当院は急性期病床（一般 19 床）、回復期病床（地域包括ケア 63 床）、慢性期病床（療養 60 床）の合計 142 床で運営しております。

急性期病床（一般 19 床）の主な入院元は、外来及び救急からの入院であり、軽症患者を中心として平均 10 日前後の入院期間で在宅復帰させることを目的に稼働しております。

回復期病床（地域包括ケア 63 床）に関しましては、26 床と 37 床の 2 病棟で構成しております。

26 床の地域包括ケア病床に関しましては、当院の一般病床からの転棟患者もおりますが、主に埼玉医科大学国際医療センターを中心とした、高度急性期及び急性期病院からの紹介患者を中心にポストアキュート機能を担う病床として運営しております。在宅復帰率は 80%を超えております。

一方、昨年 12 月より開設いたしました 37 床の地域包括ケア病棟に関しましては、在宅や介護施設からの緊急入院や施設入所待ちの患者と高度急性期及び急性期病院からのリハ

ビリを目的の患者の受入れを想定しておりました。

しかし、外科手術後のリハビリを目的とした患者の紹介が多く、この病棟でリハビリを実施した後、約 40 日前後での在宅復帰を支援しております。

慢性期病床（療養 60 床）に関しましては、ターミナルの患者や医療依存度が高く在宅復帰が見込めない患者を中心としております。

地域における療養病床への需要も依然としてあり、役割を果たすためにも維持していきたいと考えております。

（2）回復期病床における課題

昨年 12 月に慢性期病床から機能変更した 37 床の地域包括ケア病棟は、現在大腿骨の骨折による整形外科の患者や外科手術後又は肺炎等の廃用症候群の患者が中心となっております。

当院では大腿骨頸部骨折、転子部骨折を中心とした整形外科手術等を年間 40 件程実施しております。術後の患者についてはリハビリを目的として地域包括ケア病棟にて療養生活を送った後、在宅復帰を支援しております。

また、外科手術の患者の紹介元である埼玉医科大学国際医療センターの手術件数は年間で 4,900 件を超えていることから、地域においてリハビリのニーズが見込まれます。

当院への手術後のリハビリを目的とした紹介患者の受入れ需要を鑑みますと、回復期リハビリテーションのニーズが認められるものの、現状の地域包括ケア病棟では、実施できるリハビリに限度があるため、患者ニーズに応えきれていないところがあります。

（3）課題解決のための方策

当院は急性期・回復期・慢性期の病床を整えておりますが、その中でも超急性期・急性期病院の受け皿としての役割を果たすのに、唯一整備できていないのが回復期リハビリテーション病棟です。

経営方針として、急性期・慢性期をダウンサイジングし回復期への転換を決断した際、回復期リハビリテーション病棟の開設計画もありましたが、リハビリスタッフの人員確保等の問題があり先送りせざるを得ませんでした。

現在、人員確保等の問題に一定の目途が立ったため、回復期リハビリテーション病棟の開設に踏み切った次第です。

リハビリ医療を充実させ、質の向上をはかり、その「見える化」を進めることは、紹介元医療機関との関係はもとより、地域医療に貢献できるものであると確信しております。

一方、サブアキュート機能を担う目的で開設した地域包括ケア病棟が無くなりますが、現在のところ在宅や介護施設からの緊急入院の件数は少なく、今後予測される患者については、一般病床と残存する地域包括ケア病床で吸収していきたいと考えております。

（4）今後の展望

以上のことから、転換計画と致しまして、現在の地域包括ケア病棟 37 床を回復期リハビリテーション病棟に転換いたします。転換に際し、構造変更や 1 部屋当たりの病床数の変更は行わず、現状のまま病床機能のみ変更します。

疾患別患者割合に関しましては、超急性期・急性期病院との連携を密にする中で、紹介元のニーズに応じた疾患の患者の受入れを行っていきたいと考えております。

減少する地域包括ケア病棟については、現在の療養病棟の一部を転換する案もありましたが、建物が老朽化していることと、設備の整備改修に費用がかさむことから、この先の施設更新の際改めて検討してまいりたいと考えております。

可及的速やかに病床の転換を実施し、圏域の医療機関及び施設との連携をより一層図り、地域に貢献できる病院を目指してまいります。

7 変更前の病院機能の概要（平均在院日数はR1.11～R2.1、病床利用率H31.2～R2.1の1年間）

病棟名	病床数	病床機能報告区分	平均在院日数	病床利用率
西館 3 階病棟	19 床	急性期	8.9 日	81.7%
	一般/療養	入院基本料・特定入院料	急性期一般入院料 4	
西館 3 階病棟	26 床	回復期	22.2 日	94.3%
	一般/療養	入院基本料・特定入院料	地域包括ケア入院医療管理料 1	
本館 3 階病棟	60 床	慢性期	115.1 日	99.1%
	一般/療養	入院基本料・特定入院料	療養病棟入院基本料 1	
東館 4 階病棟	37 床	回復期	37.9 日	97.8%
	一般/療養	入院基本料・特定入院料	地域包括ケア病棟入院料 3	
診療科目 内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、脳神経外科、整形外科、外科、婦人科、耳鼻いんこう科、小児科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科				
診療実績（平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月） 【 手術の実施状況 】 整形外科手術（大腿骨、股関節、膝関節の骨折）26 件 （その他）12 件 瘻孔切除、乳腺手術 1 件 【 がん・脳卒中・心筋梗塞への治療状況 】 がんについては抗がん剤治療及び疼痛管理、脳卒中・心筋梗塞については一時診断のみ行い、治療は行っていない。 【 重症患者の治療状況 】 重症患者については超急性期病院へ紹介している。 【 救急医療の実施状況 】 二次救急医療機関として救急車受入れ 320 件/年 【 在宅復帰への支援状況 】 入退院支援室（看護師で構成）及び社会福祉士が入院から在宅への退院までを支援している。				

患者の受入状況 年間新入院者数 907人 (平成31年2月～令和2年1月)	
【 高度急性期・急性期病院、自院 】	
埼玉医科大学国際医療センター	108人 (11.9%)
埼玉医科大学病院	26人 (2.9%)
埼玉石心会病院	48人 (5.3%)
武蔵台病院	2人 (0.2%)
その他 14 医療機関	50人 (5.5%)
自院 (外来・救急・訪問診療)	467人 (51.5%)
【 介護施設、診療所 】	
介護医療院あさひヶ丘	36人 (4.0%)
特養 清雅園	64人 (7.1%)
岡村記念クリニック	12人 (1.3%)
その他 20 診療所	36人 (4.0%)
その他 31 介護施設・在宅施設	58人 (6.4%)
【 訪問診療を行う患者数 】	624人

8 変更後の病院機能の概要

病棟名	病床数	病床機能報告区分	平均在院日数	病床利用率
西館 3 階病棟	19 床	急性期	14.0 日	90.0%
	一般/療養	入院基本料・特定入院料	急性期一般入院料 4	
西館 3 階病棟	26 床	回復期	25.0 日	95.0%
	一般/療養	入院基本料・特定入院料	地域包括ケア入院医療管理料 1	
本館 3 階病棟	60 床	慢性期	115.0 日	99.0%
	一般/療養	入院基本料・特定入院料	療養病棟入院基本料 1	
東館 4 階病棟	37 床	回復期	70.0 日	92.0%
	一般/療養	入院基本料・特定入院料	回復期リハビリテーション病棟 5	

医療（介護）連携見込み	
【 紹介元・紹介先 】	
<医療機関>	<介護施設>
埼玉医科大学国際医療センター	清雅園（特養）
埼玉医科大学病院	介護医療院あさひヶ丘
埼玉石心会病院	ゆうらく日高
武蔵台病院	日高のんびり館
丸木記念福祉メディカルセンター	日高ふるさと館
関越病院	ふるさとホーム日高

池袋病院	ふるさとホーム毛呂山
埼玉医科大学総合医療センター	ベテラン館こまがわ
坂戸中央病院	ベストライフ鶴ヶ島
飯能整形外科病院	あしかり園
霞ヶ関南病院	さかどロイヤルの園
飯能靖和病院	
原田病院	
三井病院	
岡村記念クリニック	
水村医院	
奥田整形外科	
横田医院	
高田医院	
竹井内科	
めぐみのクリニック	
島村医院	
鶴松整形外科医院	
しんまちクリニック	

9 医療従事者（*確保予定の人員には、増員となる人数を記載）

R2.3.5 現在

職種	現在の人員（人）			確保予定の人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	10	28	5.61			
看護職員	59	12	7.23			
看護補助者	32	4	2.42			
その他	55	20	10.16	9		
計	156	64	25.42	9		

*確保予定の人員は、リハビリセラピスト（PT6、OT3）である。

セラピストの確保の状況については、令和2年4月入職者が7名決まっております、残りの2名については、グループの病院より出向のうえ確保する予定です。

10 その他

新たな連携先の開拓については、今後も継続して地域で開催される各職種同士の連携協議会へ積極的に参加するとともに、連携パスへの参加や自院所有の救急車を活用し、入院をスムーズに行います。

また、当院の立地は川越市、鶴ヶ島市、坂戸市といった圏域外の医療機関にも近く、

日高市在住の方も入院されております。圏域外の医療機関及び施設からの受入れも積極的に行わせて頂き、実績を積み上げていくことで、連携先として継続できるよう努力してまいります。